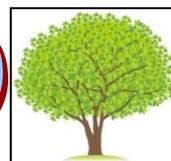


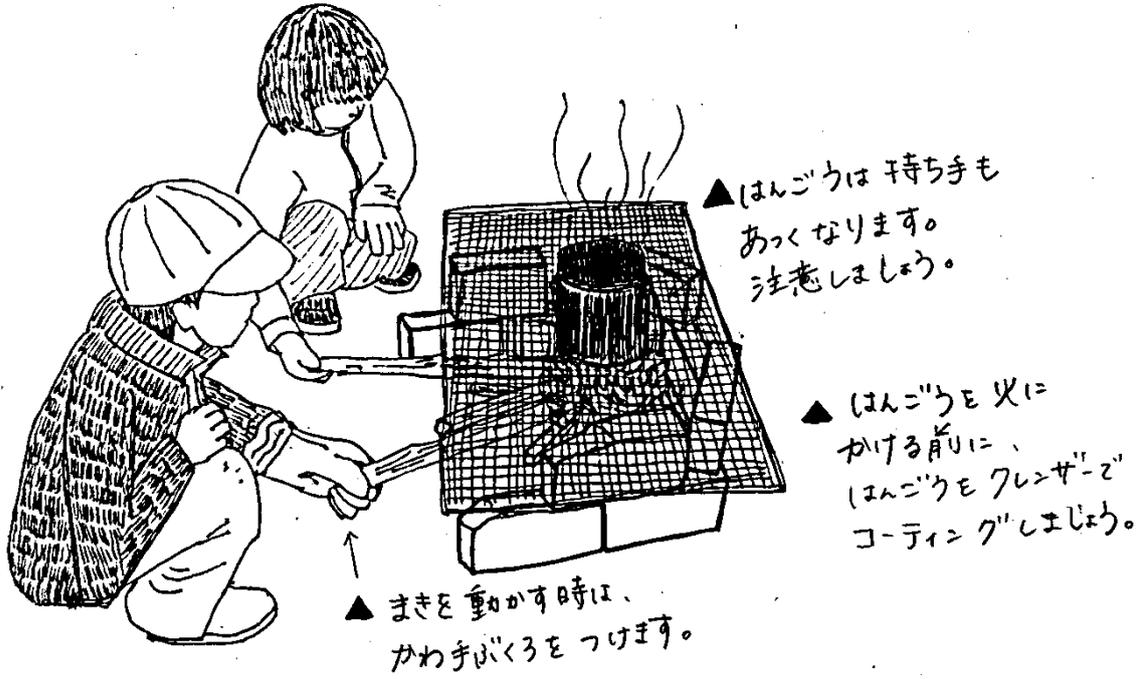
火起こし体験(湯沸かし)



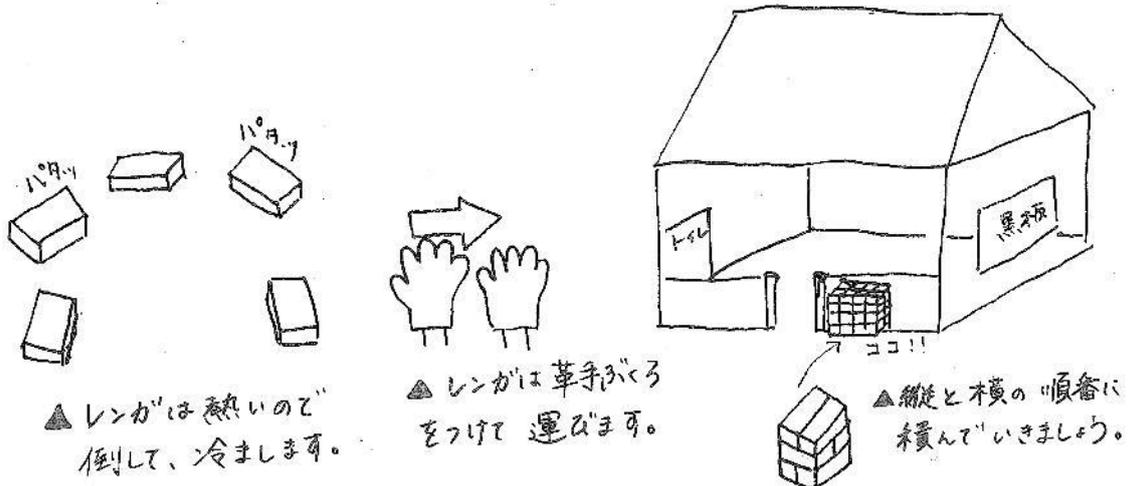
活動場所	実習棟、交流ひろば	自然の家にあるもの	薪(有料)、炊事用具一式、皮軍手、耐火レンガまたはたき火台、火ばさみ
所要時間	2時間程度	利用者で用意するもの	クレンザー、洗剤、スポンジ、金たわし、白い布巾(点検用)、軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、新聞紙、マッチ、うちわ、ココア、コップ
人数	100名程度	活動時の服装	長袖、長ズボン(綿素材のもの)、軍手(ゴムの滑り止めのないもの)、帽子、マスク

現代ではボタン一つで、簡単にお湯を沸かすことができます。このプログラムでは子どもたちが薪の組み方から火のつけ方、そして火の調整までを体験します。時には苦勞して火を起こすグループもありますが、苦勞した体験が将来、役に立つはずで

湯わかし



片付け方



とくに大切なこと

- ①火を使う学習です。先生や自然の家の職員の説明をしっかりと聞きましょう。
- ②班員と力を合わせて火を起こしましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・火の起こし方を知り、効率よく火を保つ技術を身につける。また、災害時における火の大切さについてふれる。	総合的な学習	「防災」
・燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、間伐材の燃え方を多面的に考え、実践することができる。	理科	6年「ものの燃え方」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服が望ましい。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。
- ・ココアやコップは各団体に用意する。

イ) 活動中

- ・薪の束の運搬は、軍手を着用するように指導をする。
- ・飯ごうにクレンザーをぬる指導をする。

ウ) 活動後

- ・使い終わった竹ぐしはかまどで燃やす。
- ・使った道具は元の場所に戻す。
- ・実習棟裏のスコップ、ちりとり、一輪車で、燃えた灰等は、灰捨て場へ運んで水をかける。灰捨て場は実習棟裏手にある（確認しておくこと）。
- ・レンガはしばらく熱いままなので、冷めたことを確認してから指導者の指示で片付けを行う。
- ・レンガには決して水をかけない（熱いレンガに水をかけると割れるため）。
- ・レンガは重いので、気を付けて運ぶように指導する。
- ・炊事用具一式は引率者の点検の後、自然の家の所員が確認をする。

3. 安全対策について

--